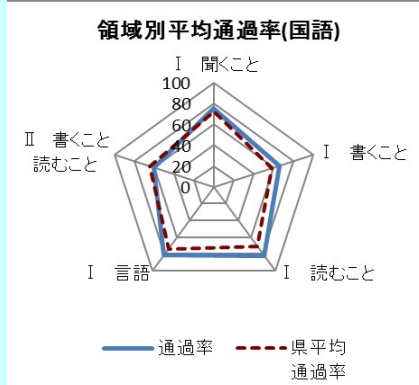
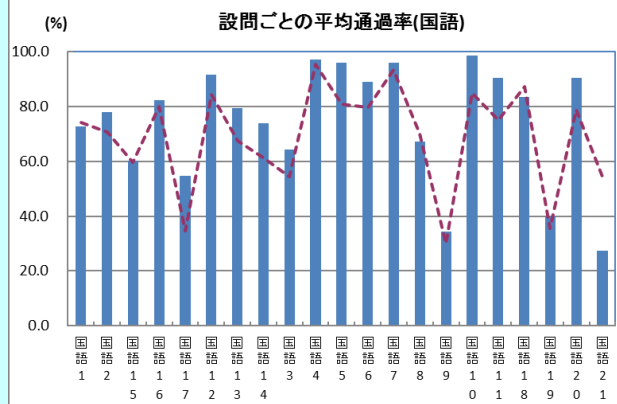


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 74.6%, 県 69.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

タイプⅠ全体の通過率は78.0%で、通過率60%を下回っている設問は4問、通過率80%を上回っている設問は8問である(17問中)。タイプⅡ全体の通過率は60.3%で、県平均64.0%を下回った。このことから、基礎的・基本的な内容の定着は図られつつあると言えるが、教科で学習した知識・技能を活用する力に課題があることがわかる。

特に、ここ3年間の課題であった、複数の資料から適切な情報を取り出し、自分の考えを具体的に書くことができる力を問う設問については、昨年度の58.8%から、今年度27.4%(県平均54.5%)と大幅に下回り、大きく課題が残る。資料を読み取る、複数の条件を踏まえて書く等、段階的、かつ複合的な指導の充実がより一層必要である。

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ 目的に応じて必要な情報を取り出し、伝えたい事実を明確に記述する力が定着していない。資料の概要と詳細を読み取り、読み取った情報を伝えたい事柄の根拠として構築する力や、「事実文」と「意見文」を書き分ける力に課題がある。(五の4 通過率27.4%)
- ◇ 表現の仕方について捉え、自分の考えを書く力が定着していない。根拠を明確にして感じたことや考えたことを書く力や、複数の場面や描写を関連付けて読み、内容を理解する力に課題がある。(B1の三 正答率57.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎ 目的に応じて必要な情報を取り出し、伝えたい事実を明確に記述するためには、読み取った情報を目的に応じて取捨選択し、意見文と事実文の違いを理解し、書き分ける力が必要である。この力を育成するために、以下の指導の工夫を行っていく。
 - ①テキスト(表やグラフなど)の読み取り
 - ②情報の取捨選択
 - ③事実と意見の違いの理解
 - ④複合的な条件を満たす文を書く。
- ◇ 複数の場面や描写を関連付けて読み、内容を理解するためには、場面の展開や登場人物などの描写に着目させ、描写の効果などについて評価するなどの客観的、分析的な読みが必要である。この力を育成するために、比喩や反復などの表現の技法についての既習の知識を活かすなど、文章表現に即した読み取り練習を行っていく。

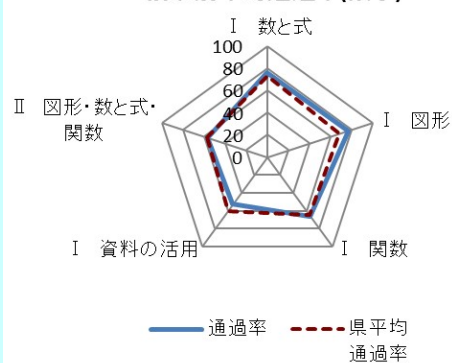
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生 中間試験	2年生 中間試験			1年生 H29「基礎・基本」	1・2年生 学年末試験
目標値		65.0%	70.0%			70.0%	70.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2年生 H29「全国」	1・2年生 学年末試験
目標値						60.0%	70.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 68.5%, 県 66.9%)

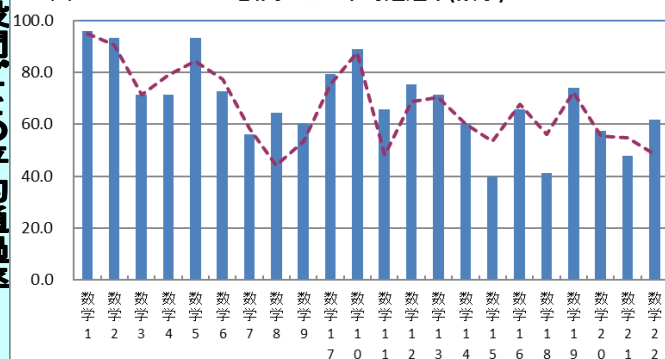
領域別平均通過率

領域別平均通過率(数学)



設問ごとの平均通過率

設問ごとの平均通過率(数学)



本年度の結果について

- タイプI全体の通過率は72.0%で、通過率50%を下回っている設問は1問、通過率80%を上回っている設問は4問である。(17問中) タイプII全体の通過率は56.4%で、通過率50%を下回っている設問は2問、通過率80%を上回っている設問はなかった。(5問中) このことから、数学的な技能や、数量や図形などについての知識・理解については、ある程度定着が図られていると見えるが、数学的な見方・考え方については課題があることが分かる。
- 昨年の課題であった、数学的用語を用いて理由をあげて説明するような設問は、2問とも正答率が50%を超えており、準正答も含めると通過率が60%前後となる。無答率は3%を下回っており、数学的な意欲はある。しかしながら、誤答については、数学的用語を使っていないものも多く、数学的な見方・考え方をし、そして論理的に説明する力が不足している。

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

【課題1】

- ◎ 与えられた関数の式を基に、事象における2つの数量関係が、比例であることを判断する力が身につけていない。

⑫ (1) 通過率47.9%

【課題2】

- ◇ 範囲の意味を正しく理解し、範囲の求め方が身につけていない。

⑭ (1) 通過率18.2%

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ◎ 日常生活における数学的事象において、2つの数量が関数関係であるものをそれぞれ見つけさせる。比例は身近にあるものなので、比例定数が整数のものはもちろん、分数、小数についても考えさせる。定着させるために、小テストを行い確認をする。

【課題2】

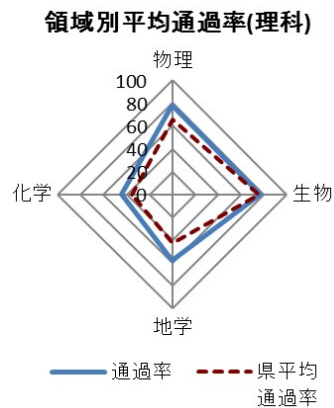
- ◇ 定期テストの結果や体力テストの結果、家庭での学習時間など、生徒の実生活の中の数値で範囲を求めさせる活動を行う。また、クラスごとの範囲を求めさせ、範囲がクラスの傾向を考察する際のひとつの資料となることを実感させたい。小テストを実施し、範囲の意味と求め方の定着を図る。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2学期中間試験		2学期末試験				2年生学年末試験
目標値	50.0%		60.0%				65.0%
実施後数値							

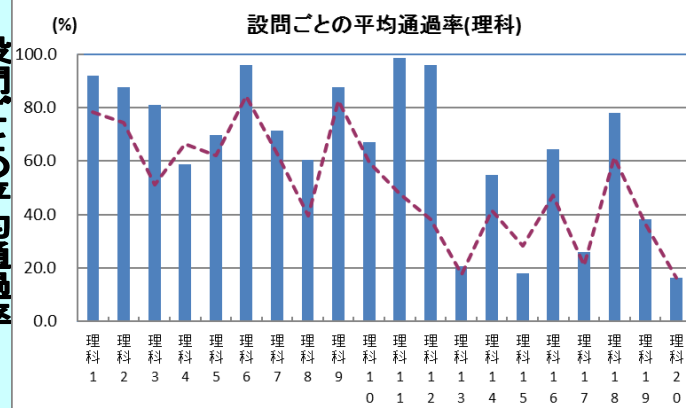
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		小テスト(1回目)		小テスト(2回目)	3年生学年末試験		
目標値		65.0%		75.0%	85.0%		
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 64.1%, 県 50.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○ タイプⅠの平均通過率は物理領域 77.2%, 生物領域 83.6%, 地学領域 83.1 であり, いずれの領域も 70%を超えていることから, 基礎的・基本的な内容についてはおおむね定着していると考えられる。また, 化学領域は 42.9%であり, 基礎的・基本的な内容についての定着が不十分であると考えられる。

○ タイプⅡの平均通過率は物理領域が 78.8%, 生物領域 65.8%, と 60%を超えており, 教科で学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などは, おおむね身に付いていると考えられる。しかし, 化学領域 47.3%, 地学領域 19.2%であり, いずれの領域も教科で学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などに課題があると考えられる。

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

【課題1】

◎ 融点は物質によって決まっていることを理解する力, 実験の条件を変えたときに結果を推測する力やパルミチン酸の量の変化に伴う加熱時間との関係を読み取る力が不十分である。

(通過率 16.4% 8(2))

【課題2】

◎ 柱状図(露頭)を分析する力や観察地における地層の広がり方について規則性を見だし, 観察結果から分析して解釈し, 空間を認識し, 地層の傾きの方向を指摘する力に課題がある。

(通過率 17.8% 6(2))

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

◎ 既習事項を確認し, 加熱時間や温度など正確な実験をさせ, 実験結果から丁寧に分析・解釈させ, 他者に説明させる。具体的には, まず, 物質によって融点は決まっていることを理解させる。次に, 正確に実験させる。そして, 実験結果から丁寧に分析・解釈させ, 他の班と交流し発表させることで考察させる。

【課題2】

◎ 地層の空間を認識させるためモデルや視聴覚教材を使って再現し, 地層に関する知識を活用し, 分析・解釈したことを他者に説明するなどの学習活動を行う。具体的には, まず, 既習事項を確認し, いくつかの柱状図(露頭)を比較することで, 分析・解釈する。そして, モデルや視聴覚教材をもとに, 地下の地層のつながりや空間を認識し, 分析し解釈したことを他の班と交流し説明させる

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			第1・2学年 期末試験		全学年 熊野町標準学力調査		第1・2学年 学年末試験
目標値			70.0%		70.0%		80.0%
実施後数値							

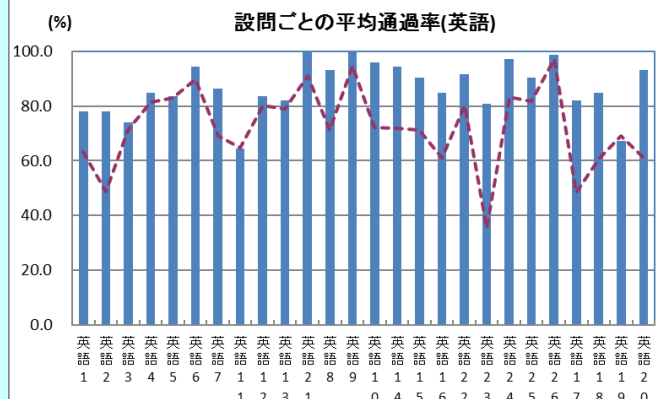
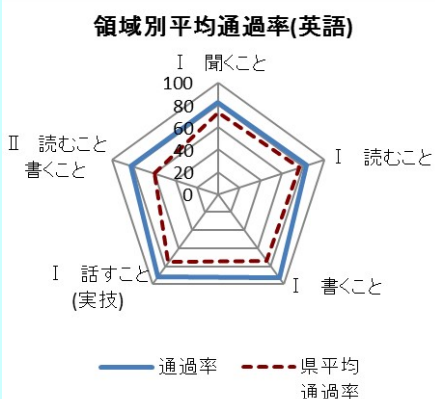
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			第1・2学年 期末試験		全学年 熊野町標準学力調査		第1・2学年 学年末試験
目標値			70.0%		70.0%		80.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 86.7%, 県 72.4%)

本年度の結果について

領域別平均通過率

設問ごとの平均通過率



○全体的な傾向

解答類型2について：この問いにおいて通過率は29.5%と非常に低い。類型1の一方の理由しか書いておらず、図や資料と関連づけて答えていない。マイクは7月31日に帰国するから。町歩きは8月にあるから。のどちらか一方の理由だけを記述し、問いとなっている下線部①の直後の文だけに着目して、”I leave Japan on July 31.”だけでも問いの答えに相当であると判断しているため、ツアーの開催日の情報と関連付けていない誤答ということが考えられる。

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

【課題1】

◎ 前後の英文を読んで、予想・想像し、図や資料から関連づけて根拠となる英文を読み取る力 (問11(1) 20.5%)

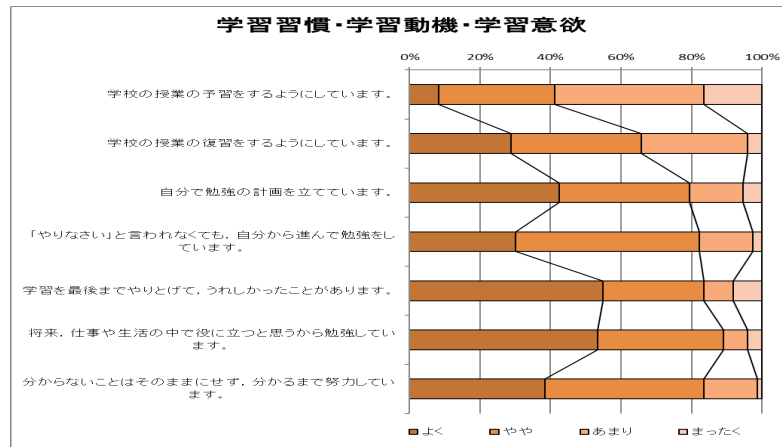
- ①資料 (図, グラフ, 表) を用いた長文読解の問題に慣れさせるために、週末課題として提示し、週明けに解説を入れ、理解度を上げる。
- ②教科書の内容理解を進める際に、どこの英文からその答えを導き出したのかを必ず聞き (書き) ,根拠をもって回答できる指導を行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 復習テスト			2年生 H29「基礎・基本」			2年生学年末試験
目標値	70.0%			85.0%			85.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法							
目標値							
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

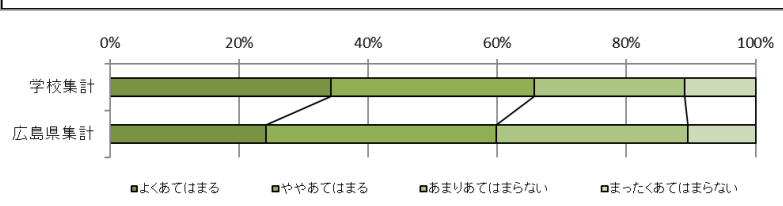
(1) 生活・学習



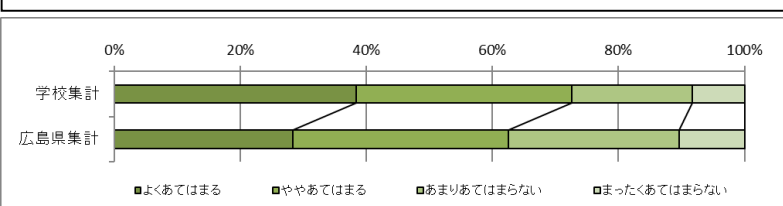
生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
◎ 学校の授業の予習をするようにしていると答えた生徒が5割に達していない。 (肯定的回答 41.1%)	「KUMAトレプラン（学習計画と生活の記録）」を徹底して書かせ、生徒に意識して取り組ませる。各教科で、予習の内容ややり方を指導する。	全	70.0%	生徒アンケート調査	1月		

(2) 教科

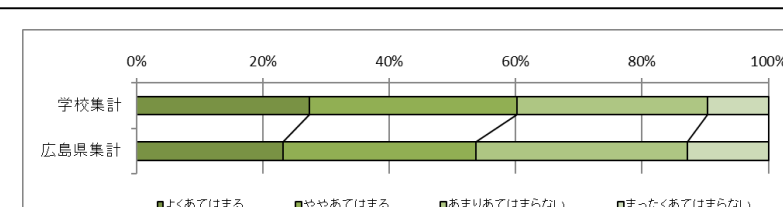
国語の授業で学んだことを、普段の生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



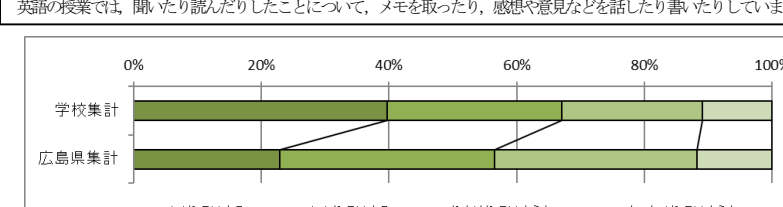
数学の授業で学んだことを、普段の生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしている。



理科の授業では、観察や実験を行うときは、その目的は何かを意識しています。



英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見を話したり書いたりしています。



	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。(65.7)	実生活から課題を設定し、レポートの書き方や討論の仕方等、他教科で活用できる学習活動の展開を工夫する。	2	80.0%	生徒アンケート調査	1月		
数学	「数学の授業で学んだことを、普段の生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしている」の設問に対して、肯定的な回答が72.6%と、他の設問より低い。	単元ごとに、日常生活における数学的事象を検討し、そのことを授業で取り上げる。また、簡単な実験など、体験活動を増やし、指導する。	2	80.0%	生徒アンケート調査	2月		
理科	自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている生徒が60.3%であり、そのうちよくあてはまると答えた生徒は27.4%でる。	個人で考えたことを少人数グループで話し合わせたり、派遣員方式で説明させたりするなど、他者に説明する場面を多く設定する。	全	70.0%	生徒アンケート調査	1月		
英語	「英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見を話したり書いたりしています。」の設問に対して、肯定的な回答が他の設問より低い。(67.5%)	Student teacher という英語の授業での日直を毎時間行っている。その際に、自分の意見を言う際に、発表者が何を言ったのかメモをとる必要がある。そこから、発表者に対する質問も考えることができるよう指導していきたい。	2	85.0%	生徒アンケート調査	11月下旬		